



本校の授業改善に向けた視点 \* 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の探究

各教科・領域における言語活動の充実	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科担任制をはじめ、学習活動・学習過程・学習形態等を工夫する。</li> <li>○指導体制の工夫</li> <li>・区学力向上支援講師や加配教員による習熟度別算数少数指導を実施する。</li> <li>○交換授業を実施する。</li> <li>○年間指導計画等を改善する。</li> <li>○学習スタンダード等を効果的に活用する。</li> <li>○板書計画、ノート指導の充実を図る。 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゆとりある授業時数を確保する。</li> <li>○漢字・計算・読書等の基礎的・基本的な学習のための関北タイムの充実を図る。</li> <li>○夏季休業中、学力補充教室を実施する。</li> <li>○地域未来塾の検討を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全面実施となった小学校学習指導要領の趣旨を生かした授業実践の充実を努め、教師個々の指導力や授業力等の向上を図る。</li> <li>○教員の能力・特性を生かした指導力向上のための研修会の実施</li> <li>○学習指導要領および特別支援教育等の研修会を開催する。 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価規準・評価計画のもと、PDCA [計画・実行・評価・改善] のサイクルによる改善を図る。</li> <li>○形成的評価を随時行うことにより、指導と評価の一体化を目指す。</li> <li>○評価補助簿等を活用し、個別指導の充実を図る。 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な学習の時間」等、各教科領域の学習における地域人材を積極的に活用する。</li> <li>○学校評議員による評価を生かし、開かれた学校づくりの推進をする。</li> <li>○基本的な生活習慣や学習習慣を育む家庭の教育力の向上を目指す。</li> <li>○様々な広報活動により、学校の教育情報の積極的な発信をする。</li> <li>○校舎改築を踏まえ、地域主催行事に教員が積極的に参加することによる、相互の信頼関係の更なる深化 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関中学校との定期的な連絡会や分科会を開催し、小中一貫教育につながる情報を共有化する。</li> <li>○これまで実施してきた活動を生かして、一層の連携を図る。</li> <li>○児童生徒間だけでなく、教員間の交流を校区別協議会等で推進する。</li> <li>○先進校の研究に学び、新企画を立案する。 等</li> </ul>

授業改善策の検証方法

- 各種の意識調査や学力調査の結果を入念に分析し、前年度との経年比較を行いながら、指導方法の成果と課題を明らかにし、児童の学びを豊かにしていく。
- 各教科の基礎的・基本的な内容の習得状況については、各種の学力調査の結果と授業改善策との関連を踏まえて分析し、前年度からの変容を確認していく。
- 校内研究の一環として、児童の学習意欲に関する意識調査を行ったり、学校2020レガシー関連の体育科の新しいスポーツを導入したりして、学習意欲の向上を図っていく。